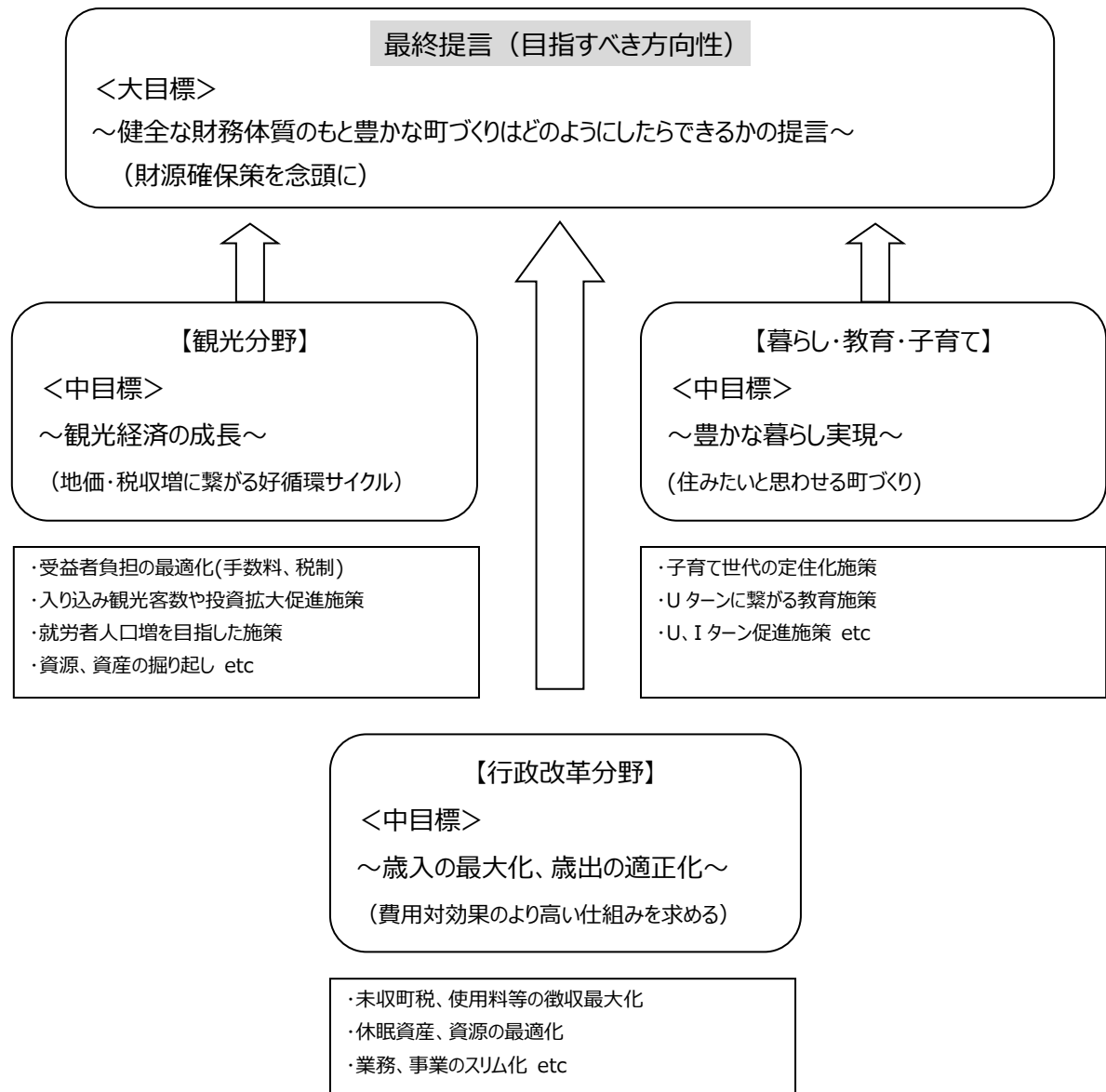


第 1 回箱根町行財政運営を考える町民会議の結果について

○町民会議の今後の取りまとめに向けたイメージ（杉山委員提案）



大目標を実現するために、各分野で中目標を設定し、さらにそれを実現するための施策を検討することで、比較的皆興味のある各論も提言に盛り込める。ただし、施策はあくまで大または中の目標達成のためのものに限ることで、議論の一定の集約を図る。（目指すべき方向性を先に定めることが極めて重要）

第1回町民会議 観光グループ意見交換会結果概要

日時：平成29年5月19日（金曜日）16:00～16:55

場所：箱根町役場本庁舎4階 第1委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

内田良雄委員、勝俣賀寿代委員、倉田義巳委員、高橋 始委員、鈴木茂男委員
勝俣昭彦委員、中里健次委員、澤村吉之委員、杉山慎吾委員

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

田中 啓教授、高井 正教授

〔町〕

村山企画課長、杉本税務課長、伊藤企画課副課長

1 今後の議論の方向性（まとめ）

観光分野による好循環サイクルの創出に向け、何をしなければならないのか。

沢山の観光客が来る ⇒ 観光産業活性化
⇒ 資産価値UP ⇒ 固定資産税収UP
⇒ 町の活性化



この好循環を生み出せるようにアイデアを出す。

2 意見交換の概要

(1) 箱根町観光協会のまとめた5つの課題を共有

- ・箱根町観光協会と町の連動性が弱い
- ・メディアリレーション
- ・インバウンド対応の窓口がない
- ・各地域間の連携
- ・マーケティング機能の欠如

(2) 意見交換で出された主な意見

①各地域間の連携について

- ・各地区の観光協会では、イベントに追われてしまい町全体のことを考える時間がない。

②観光客数について

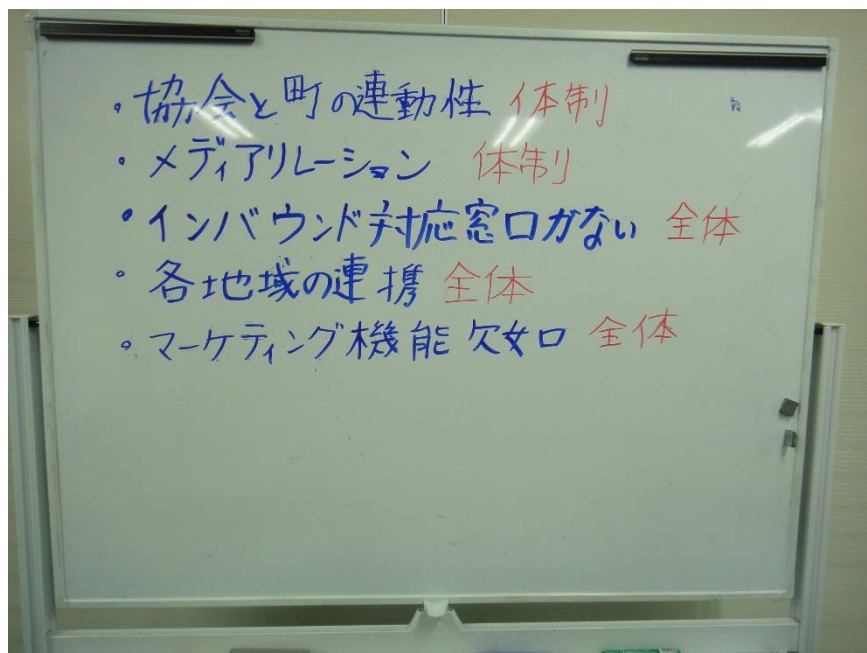
- ・町全体を考えると現状で目いっぱいではないか。
- ・ゴールデンウィークのお客様の状況を見ると、これ以上は厳しいと思う。
- ・交通渋滞を何とか解消できないか。
- ・環境省の規制を緩和しないとこれ以上の受入れは厳しい。
- ・交通2社で連携してもらいたい。周遊きっぷなど、特に外国人には分かりにくい。
- ・仙石原では開発が相次いでいる。ただし、既存のものを活用している方式。
- ・道路を広げるなど抜本的な対策を考えないと難しい。町には国・県に対して積極的に働きかけてもらいたい。
- ・外国人観光客について国は目標を掲げているが、現状を考えるとその受入れができるかどうか。

③外部からの新規投資について地域として受け入れられるか。

- ・仙石原ぜひ来てもらいたい。そういうことがないと、不動産の動きが出ない。
- ・今まで箱根は比較的そういう動きに対して歓迎はしていなかったところがある。
- ・強羅は保養所の再利用など、動きが活発である。
- ・各地区、業種で考え方は異なるであろう。

④町への意見

- ・我々事業者のやれること、行政にやってもらいたいことを整理する必要がある。
- ・入湯税の代わりに町で宿泊税を導入することを提案したい。民泊や事業所ごみ有料化の実態を見ると、不公平感がある。
- ・小田急が仙石原にバスターミナルを計画している。町は小田急に依存している状況。何も考えを出さない。町は観光に積極的に取り組んでももらいたい。



第1回町民会議 暮らしグループ意見交換会結果概要

日 時：平成29年5月19日（金曜日）16:00～16:55

場 所：箱根町役場本庁舎4階 第2委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

安藤雅章委員、勝又 實委員、中村光章委員、酒寄繁基委員、高橋典之委員、
勝俣昌美委員

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

池島祥文准教授

〔町〕

對木総務部長、吉田朋正財務課長、辻満、海野

1 今後の議論の方向性（まとめ）

『豊かな自然を教育にも活かし、教育の充実を住民増加に繋げる。』

『コミュニティビジネスを育成し、地域社会の活性化と問題解決力の向上を図る』

『観光資源を活かし、生活の豊かさの向上を図る』

町の魅力である豊かな自然を活かし、箱根ならではの教育を充実させることが重要である。また、豊かな自然はIターン居住者の増加を促すことができる。交通－教育－生活と、問題点は相互に係わりをもつ。特に自動車の渋滞等交通面での問題点は、教育・生活・観光等に様々な影響を与える。

2 意見交換の概要

(1) 現在町が抱えている課題と長所について

①教育関係

- ・ 中学校卒業までの家庭への支援策は充実しているが、高校以降の支援は不十分。
- ・ 親が金銭的・時間的に余裕がなく子を塾に行かせられない等の理由により、子の学力が二極化している。

②交通関係

- ・国道一号線が頻繁に渋滞し、観光等に様々な影響が出る。
- ・湯本駅近辺には路上駐車が目立ち、交通の妨げになっている。横断歩道の補助員がいた時は交通の流れが良かった。
- ・バス代の負担が大きい。住民を優遇するための補助や料金体系が必要なのではないか。

③生活（買い物、医療、福祉など）

- ・医療や福祉の面でサポートが必要な一人暮らし高齢者が増加している。
- ・湯本近辺にはスーパーや商店がなく、生活用品購入のために小田原まで行く必要がある。一方で、仙石原や宮城野からは小田原までの所要時間が長い。

④住宅関係

- ・自然公園法により、住居建築に規制がかかる。
- ・町内者が就職等を機に転出し、町外での住宅取得により町に戻らなくなる。

⑤その他

- ・役場職員に町外者が多い。実際に住んで自ら問題に直面しないと、解決策は見えてこないのではないか。また、町外出身者の職員が箱根に愛着を持てるか疑問に感じる。

